

# コールの R ユーカリ eport

## オーストラリアにも河童が？

遠賀郡にぬりかべなどの妖怪の神話があるように、オーストラリアにもたくさんの伝説があります。カモノハシを初めて見たイギリスの入植者が、それを、アヒルとモグラを縫い合わせたいたずらだと思ってしまうほど、オーストラリアの生き物は特徴的です。そのため、実際と想像の生き物が分からなくなることがあり、言い伝えが生まれやすい国とされています。

例えば、原住民アボリジニーの伝説である「バンイップ」です。日本の河童のような存在で、部族の伝説によって見た目が異なりますが、池に住む巨大な悪魔として知られていました。19世紀後半にオーストラリアを植民したイギリス人にとって、「バンイップ」は未確認生物でした。入植者たちの「バンイップ」目撃証言が新聞などに残されていて、「バンイップ」のものと言われる骨も発見されました。

しかし、約100万から6000年前に生息していた「ディプロトドン」という巨大な有袋類動物の骨だっ

たことが証明されました。何千年も前に「ディプロトドン」を目撃したアボリジニーたちが「バンイップ」と名付け、「ディプロトドン」の絶滅後も「バンイップ」として言い伝えられたと考えられます。

皆さんに一番覚えてもらいたいのは「バンイップ」より何倍も恐ろしい「ドロップベアー」です。「見た目はコアラに似ていますが、長いかぎ爪を持っている危険な肉食動物です。木の上に住んでいて、下を通る人間の頭をめぐけて落ち、襲ってきます」と言って、外国人観光客をからかうオーストラリア人がいるので、気を付けましょう。ちなみに、「ドロップベアー」は架空の動物です。



▲オーストラリア国立博物館にある「ディプロトドン」の復元標本

## 私の父と母が岡垣町へ！

4月の前半に私の父と母が岡垣町にやって来ました。今回で3度目の来日です。東京や大阪など外国人観光客がよく行く場所ではなく、温かい人々やきれいな自然に恵まれている岡垣町に来ることができて本当にうれしいと話していました。岡垣町の皆さん、父と母を温かく歓迎してくれてありがとうございました！

今回、昨年から私がお世話になっている英会話の生徒たちに、父と母がお世話になりました。英会話の授業に参加し、岡垣町について教えてもらい、父と母は貴重な経験ができました。

若松にある日本食のお店にも連れて行ってもらい、母の好きな豆腐料理を楽しみました。そのお店では、子どもの日が近づいていることから玄関に兜が飾られていて、父がパチパチと写真を撮っていました。紙のテーブル敷きにも兜の絵が描かれていて、その紙を持って帰れることを知った父は、料理を食べるときに紙を汚してしまったことを残念がりましたが、きれいに食べた生徒の紙をもらいました。

桜がほとんど散った時期に来日してしまったものの、成田山に向かう途中に、田んぼの上で風に吹かれ

ている鯉のぼりやきれいに咲いている八重桜など、日本ならではの美しい景色が見られました。成田山から波津海岸を眺めた後、高倉神社を参拝しました。境内にあるクスノキが県天然記念物に指定されていることなど、岡垣町の人と一緒に行かないと分からない高倉神社の歴史や見どころを教えてくださいました。神社の前にある綾杉が、日清戦争のときに戦勝するためのお守りとして逆さまに植えられたことも初めて知りました。

高倉神社から龍昌寺に向かっている途中でカワセミを目撃し、町の鳥までもが歓迎してくれている気持ちになりました。



▲母と一緒にカワセミを探しました